



観 光 竜 王

Sight seeing RYUO

第88号

☆

発行

竜王町観光協会

〒520-2592

滋賀県蒲生郡竜王町小口3番地

竜王町総合庁舎・西館2F

TEL 0748-58-3715

FAX 0748-58-3730



ホームページ



Instagram



竜王魅力発信くらぶ チューリップオーナーの花々

『地域の力が育む竜王の魅力』



竜王町観光協会

副会長 邑 地 礼 子

盛夏の季節となりました。皆様には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より竜王町観光協会の活動に対し、格別のご理解とご支援、ご協力を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

竜王町では地域の皆さまのご尽力により、新たな観光資源となる美しい景観づくりや伝統文化の継承活動が各地で進められております。オーナー制によるアグリパーク竜王のチューリップ畑や善光寺川沿いの花桃並木と鯉のぼりの川渡しをはじめ、弓削の火祭り、ケンケト祭り、苗村神社の流鏝馬など、竜王町ならではの魅力が多くの皆さまの手によって守り育てられております。

こうした魅力は、決して自然に生まれるものではなく、地域を愛し、次世代へ受け継ごうとする皆様の熱意とご努力によって支えられております。近年はSNSの普及により、その魅力が全国へ発信され、多くの観光客に竜王町を知っていただく機会が増えて参りました。実際に、竜王町観光協会のInstagramでも、イベントが集中する春の1か月間で十五万件を超えるアクセスがあり、竜王の魅力に対する関心の高さを実感しております。観光協会といたしましても、地域の皆さまが育んでこられた貴重な観光資源を広く発信し、多くの方々との交流につなげることで、一層の地域活性化に努めて参りたいと考えております。また、現在、滋賀県では一滋賀

デザインেশョンキャンペーン」に向けた観光誘客事業が進められており、県内各地で地域の魅力を生かした取り組みが展開されております。当協会もこの機会を好機と捉え、歴史文化を活用した観光振興に積極的に取り組んでおります。

その一環として、これまで三月に斎行しておりました「鏡の里元服式」を、本年は十一月二十二日（日）に「鏡の宿義経元服まつり」として開催する予定でございます。牛若丸が義経へと生まれ変わる元服の儀を再現するとともに、歴史体験型の催しを取り入れ、鏡宿に伝わる義経伝承や地域の歴史文化に親しんでいただける機会を創出して参ります。

現在は検討委員会を立ち上げ、開催に向けた準備を進めております。ボランティアの皆さまには元服衣装の製作にもご協力いただいております、また広くご支援を募るためクラウドファンディングにも取り組んでおります。こうした地域の皆さまとともにつくり上げる事業として発展させながら、翌二十三日（祝月）に催行の琵琶湖一周のろし駅伝とあわせ、歴史文化を通じて交流と情報発信を進めることで、歴史ファンのみならず多くの皆さまに訪れていただけた観光事業として育てて参りたいと考えております。

今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

『山中の山王伝説』



竜王歴史倶楽部
市岡ひろみ 氏
(山中)

山中は鉄道の駅から遠く、竜王町の中でも最も奥の隅にあります。隣は旧甲西町の下田で、交通の不便な所に位置しています。山中は田畑より山が多く、昔は通り抜ける道もなく、外部との接触が少なく、閉鎖的になっていたので部落婚が多く見受けられました。私が嫁いで五十余年になりますが、来た時に「山中は竜王のチベットやで。速達配達区域外やし、大阪のデパートから物を送っても特別料金を取られるんやで」と言われたことを今でも覚えています。「竜王のチベット」である山中は、ずいぶん古くからの村であつたらしく、種々のいわれや伝説が今も多く残っています。

山中の起源

甲賀郡奥山中は、平家の落ち武者が留まった所であり、家紋は橘がほとんどで、浄土宗が字全体を占め、山中の姓が多く、当時甲賀山中は人が増えたため、その一部が鏡山村の山中に来たので、「山中の祖先は、平家甲賀奥山中である」と言われています。

牟礼千軒・箱石千軒・・・

「昔、牟礼山には千軒からの家があつたため、人が住めなくなり、一部は山の中へ入り、一部は口へ出た。それが大字山中であり、大字小口である」との伝説もあります。昔、牟礼千軒・箱石千軒と言つて、竜王町西部の山は大変賑やかな山であつたらしく、鏡から薬師までを箱石山と言ひ、小口から山中の山までを牟礼山と呼んでいたそうです。箱石山雲冠寺と牟礼山法性寺は仲が悪く、争いが絶えなかつたそうで、最後は堂塔伽藍皆焼き払われてしまったということ。現在の山中では、山中某氏の田及び山を牟礼と呼んでいます。

牟礼山法性寺（または福満院）

法性寺は誰に聞いても、所も名前も知らない実に不思議な寺であります。小口の神社の縁起書には「聖徳太子牟礼山法性寺建立す 本社は其の鎮守なり」と書いているそうです。先の山中某氏の親が山を拓いて田にした時、竹の樋が土の中から出てきて瓦の破片もありましたが、小口には寺跡らしいものは無いようなので、多分法性寺跡は、山中某氏の山であらうと思われまふ。この法性寺は九百年前に焼けていますが、その名残りの地名かもしれまふ。

傘岩及び八大竜王宮

古代の信仰は、「神は山の頂上の岩

に降つてみえる」と信じて、頂上の岩に向かつて礼拝したようです。嶽山の頂上には大きな岩があり、山中では傘山と呼んでいます。少し斜めですが、牟礼山と向かい合い、氏神様にも向かい合っています。氏神様が祀られるまでは傘山に向かつて礼拝していたのではないかと思われまふ。

この傘岩より百〜二百メートル下つた所の岩の上に、八大竜王宮がお祀りされていて、祭神は足のついた蛇であると言われています。インドでは雨の神様として唱えられています。昔から靈驗あらたかな雨の神様として言い伝わつていて、日照りの時に参ると三日〜四日後には雨が降つたと言われています。

神殿（かみどん）

大字山中の裏に小字神殿（かみどん）があります。昔は宮さんが祀つてあつたということです。今は殆ど田圃になつています。西に小高い山があり、神殿山と呼んでいます。昔は神殿お堂、釣鐘堂、墓場、藤の棚、泉水等、相当広い土地が信仰の中心であつたと思われまふ。現在、田圃にお堂の建つていた所を堂田、墓場のあつた所を墓ヶ谷、藤の棚があつた所を藤本、泉水のあつた所を泉水田と呼んでいます。釣鐘堂という青年団の一畝足らずの田には、今も鐘が埋まつているとの言い伝えがあります。

元三大師良源と恵心僧都

元三大師は横川に御廟のある慈恵大師良源のことで、後に天台座主となつた大徳偉いお坊さんです。この良源

上人が、平安時代中頃この山中に来て庵を結び、仏の道を教えたと言われています。場所は小字「神殿」と呼ばれている田圃のあたりと言われています。

その良源上人を慕つて弟子の源信上人が、この山中へ来られ、一体の地藏尊を刻んで祀られました。源信上人は、恵心僧都とも呼ばれ、「往生要集」を著わされたことで有名なお坊さんです。「子安地藏」と名付けられたこのお地藏さんは、靈驗あらたかという噂が各地に広がり参拝者が後を絶たず、誰言うことなく「お地藏さんに後光がしてある」とのことから寺号を「光明寺」と名付けたと伝えられています。

このように山中には古くからの言い伝え・伝説が今でもたくさん残っています。その他にも大山昨神社、光明寺、講、株内、小字名等、調べる価値のあるものばかりです。

今では現代化・簡素化で、昔の面影が様変わりしましたが、住めば都。「竜王のチベット」である山中が私は大好きです。若者が故郷から出ていく時代ですが、山中の良さを再認識して次世代に伝えていきたいと思うところです。

(山中三郎氏「ふるさと」参照)



牟礼山イメージ

シリーズふるさと探訪 (69)

「思い出のケンケト祭り」

私が初めてケンケト祭りを知ったのは、十数年前の春のこと。祭りを見ようと、在所の人とともに、田中の小径をたどっていた時、前方の山之上から、ふいに風が吹いてきた。南東の風だ。風は、「かねの音」を連れていた。何故か、その音は私の心の奥底で、深く響いた。山之上に近づくと、音は、漸次、明らかに becoming ケケン ケケンと聞こえてくる。そう、それは確かに、「かねの音」だ。決して「鐘の音」でもない、紛れもなく「鉦の音」。堅く、鋭く、心に響く、伝統の音である。

在所に入ると、少年の集団が見えてきた。渡りの行進と見える。遠目ながらも、古き世の衣装と彷彿される時代装束。先頭は、踊りの主役的な存在の「長刀の振り子」と呼ばれる若者。華やかな友禅模様のちりめんをこしらえた鎧下（よろいした）を着て、下は派手な袖なし黒エリの袴絆である。腰から下は色とりどりの毛糸で横模様のアミを着用、その裾には、小鈴が縫い付けている。なかなかの美しい衣装である。親御さんの笑顔が晴れがましい！

そのあとを鉦打ちが続き、さらには、草鞋履きで「オード」と呼ばれる道化役風の若者が続く。最後尾は鷲である。これは御幣の一種で、長さ三メートル余りの五色のイナプロで飾られており、

頭にはドジョウをくわえた鷲を飾り付けた奇怪な代物だ。このイナプロは、タンスの虫除けになるといわれ、これを求めて見物人が鷲を倒して持ち帰ろうとする。そうはさせぬと、鷲警護役カワチャと呼ばれる少年達が、必死の形相で守りにかかる。年甲斐なく、私もイナプロ取りに参加して、小さな紙片を手に入れた！細やかな楽しみ(笑)。

側にいる鉦打ちも、力強く鉦を打ち、打ち鳴らす。鷲は、倒されたり、起こされたりと大層なドタバタ劇のヒーローとなる。それが何度も繰り返されて、祭りの見せ場をつくっていく。

やがて、一同は参道を抜け、目当ての社に練り込んだ。境内で「仕舞振り」の奉納だ。鉦打ち・太鼓打ちの賑やかな囃子の演奏が終わると、会場は静かになり、アトフリと称する年長者の「仕舞振り」で、厳かに奉納が締めくくられる。その「仕舞振り」は、①長刀の中央を持つて左右に振り回す、②両手で持つて、真ん中を飛び越える、③長刀の中央を持つて回転させ、それを飛び越えながら拝殿前を回る、④最後に空中高く放り上げて、落ちてくる長刀をキャッチする等、アクロバチックで、見所満載の美技・諸芸である。驚く親御さんの顔が、笑顔に変わる！

終盤、振り子のOBらしき人は、激

しくも、温かい「ゲキ」を飛ばすのだ。「まわれ！回れ！もつとまわれ！」若者、応えて高く飛び、回って、長刀を放り上げる。

祭りという言葉は、本来、神仏や祖先を「祀り」、祈りや感謝を献げる儀式からきていると言われる。その本質は、いつの時代であろうと変わりはない。だが、時代の変遷の中、祭りの形式や姿は時代とともに変わってきた。ケンケト祭りも同様です。昨年辺りから、かつてない二つの大きな変化が起きた。

一つ目は、ケンケト祭り誕生の頃から四五〇年もの間、合同で運営を行ってきた宮川地区では祭りの主役である若者が少ないため、暫くの間祭り参加を見合わせる事になったようだ。新参者の私にとっては、とても残念な出来事だ。二つ目は、古来、長刀の振り子役は伝統的に男子のみでやってきた。が近年、女子に門戸が開かれたと言うより、恐らく少子高齢化の流れで祭りの担い手の減少が起こり、その人材不足対策であろう。考えようによっては、この変更は祭りにとって新たなフェイズチェンジになるかも知れない。今後は、男女それぞれの良さを生かした新しい、祭りの運営がなされるであろう。これは朗報どころか、吉報

山本 茂氏(美松台)

ではないか！
帰り道、私の心は、賑わい囃しと親御さんの笑顔で、すっかり満たされていた。

*追補 歴史あるケンケト祭りの起源・由来や行事の詳細については、学びたい諸兄におかれましては、山之上祭礼保存会発行の「山之上祭礼記」を是非、拝読されますようお願い申し上げます。竜王町図書館の蔵書です。



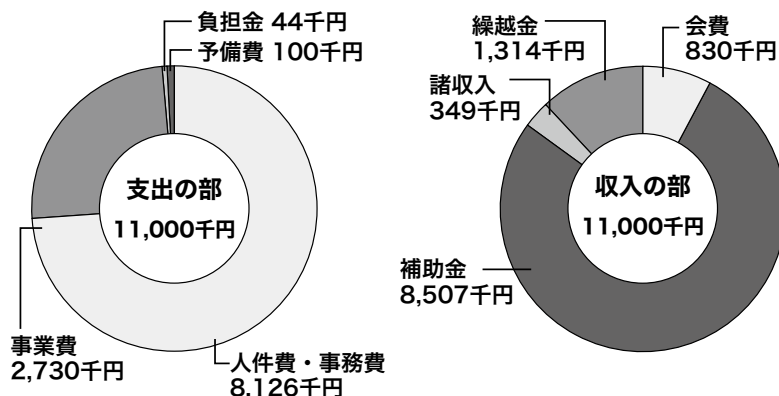
ケンケト祭り

令和八年度の主な事業計画

【事業】

- ① 滋賀デスティネーションキャンペーン活動
- ② 鏡の宿義経元服まつりの開催
- ③ アウトレットでのイベント活動
- ③ JRふれあいハイキング
- ④ 広域観光キャンペーン観光誘客活動
- ⑤ 近隣観光キャンペーン観光誘客活動
- ⑦ 雪野山、鏡山ハイキングコース等の整備
- ⑧ SNSによる情報発信の強化
- ⑨ 観光ポスター・チラシの制作・配布
- ⑩ 役員研修会
- ⑪ 広報誌「観光竜王」の発行
- ⑫ 環境王国への支援
- ⑬ 竜王歴史倶楽部の活動支援
- ⑭ 会員・屋台事業への幹旋活動
- ⑮ 近江つし丸の観光振興・観光誘客

令和八年度の収支予算の内訳



今後のイベント・祭典情報

- 七月四日(土)～五日(日)
 グランまるしえ
 三井アウトレットパーク滋賀
 竜王南モールセンターコート
 時間…両日とも午前十時～午後四時
- 八月二十二日(土)
 中心核「交流・文教ゾーン」
 オープン記念イベント
 新校舎内覧会…十四時より
 記念イベント…十五時より
 現校舎、グラウンド
 会場…竜王小学校
- 八月二十四日(月)
 駕輿丁延命子安地藏尊御開帳
 駕輿丁地藏堂
 ご祈禱は午前九時、十時、十一時より
 午後は数珠繰り法要
 九月二十五日(金)
 へちま加持祈禱
 川守・龍王寺
 ご祈禱は八時十五分、九時三十分、十時五十分、十二時四十五分、十四時、十五時五分より
 受付は十八時まで
- 十月十八日(日)
 グランまるしえ
 三井アウトレットパーク滋賀
 竜王南モールセンターコート
 時間…午前十時～午後四時
- 十月三十一日(土)
 JRふれあいハイキング
 鳴谷溪谷、鳴谷池、雲冠寺跡、
- 十一月八日(日)
 岩屋古墳、オウゴ古墳
 集合…三井アウトレットパーク滋賀
 竜王バスターミナル
 グランまるしえ
- 十一月十四日(土)
 三井アウトレットパーク滋賀
 竜王南モールセンターコート
 時間…午前十時～午後四時
- 十二月二日(日)
 JRふれあいハイキング
 正覚院、苗村神社、駕輿丁地藏尊、龍王寺、田中地区での
 野菜収穫体験
 集合…竜王町公民館前
- 十二月十三日(日)
 鏡の宿義経元服まつり
 集合…道の駅竜王かがみの里
 午後の部
 源義経公に係る人物
 仮装行列、義経公に
 因んだジャンプ大会
 や腕相撲大会
- 十二月二十三日(祝月)
 鏡の宿義経元服まつり
 JRふれあいハイキング
 琵琶湖一周のろし駅伝
 星ヶ崎城址からのろし打上げ
 集合…道の駅竜王かがみの里
 とがら祭り
 鏡神社

クラウドファンディング情報

【源義経元服の地】

かがみの里で元服体験！
 歴史の元服式を次世代へ継承

源義経ゆかりの「かがみの里」で、八五〇年受け継がれる元服式を本格再現。十七回目となる今年には歴史ファンの皆様と共に「義経をめぐって感動する日」を実現しようとクラウドファンディングプロジェクトを立ち上げました。
 募集期間 二〇二六年七月一日～八月三十一日まで支援募集

返礼品

元服式衣裳着用参加権
 利、鏡神社でのお名前提示、道の駅での支援者パネル展示、竜王産近江牛、近江米、竜王産品詰め合わせ、竜王産酒など
 ※他にもクラウドファンディングの返礼品をたくさんご準備いたします。
 皆さまのご支援宜しくお願いします。
 (鏡の宿義経元服まつり検討委員会)

あとがき

町では、長年の懸案でありました竜王小学校新校舎が漸く出来上がり、開校間近となっています。

滋賀県では、平成十二年(一)三月)以来の滋賀デスティネーションキャンペーン(本番は令和九年十月十二月)が決定されました。デスティネーションキャンペーン(以下DC)というとは、全国のJR旅客六社(北海道・東日本・東海・西日本・四国・九州)が該当の都道府県・市町等の自治体や観光協会、旅行会社等と連携し、地域の新たな観光素材を全国にPRし観光誘客を目指す大型キャンペーンです。また、継続的な地域観光振興に繋げることを目的に、DC開催の前年度(令和八年・十年)の同時期をPRDC・アフターDCと位置づけ、令和八年より九年、十年の三年間、滋賀DCが開催されます。

観光協会は、この滋賀DC活動にも積極的に参加し、聖徳太子ゆかりの地参拝ツアーや源義経元服式、琵琶湖一周のろし駅伝、果樹狩り体験、竜王そば打ち体験、鮒寿司漬込み体験等、素晴らしの観光資源を全国に情報発信し、観光を契機に目指した事業を展開します。また、これを観光資源を再確認し、情報発信を通して全国から観光誘客促進を図って参ります。

『鏡の里元服式』は、これまで三月に斎行して参りましたが、年度末でもあり、参加が減少しました。昨年九月より神社関係者や区関係者、保存会の皆さまと観光協会が検討委員会を立ち上げ検討して参りました。この結果、今秋十一月の三連休に斎行することになりました。また、これまで二十三日に催行されてきました『琵琶湖一周のろし駅伝』と『鏡の里元服式』をセットで『鏡の宿義経元服まつり』と称してイベントを催行する運びとなりました。勿論、前述の滋賀DCコンテンツとして情報発信し、全国から観光誘客を目指します。

今回の滋賀DC活動を通じて、開催施設や地域だけでなく、地の利の良い竜王町を広く前面に押し出し、知名度や認知度アップを図り、観光誘客促進を目指して参ります。地域の皆さまには令和十年まで滋賀DC活動に對しまして格別のご理解ご協力をお願い申し上げます。
 (観光協会 事務局)